

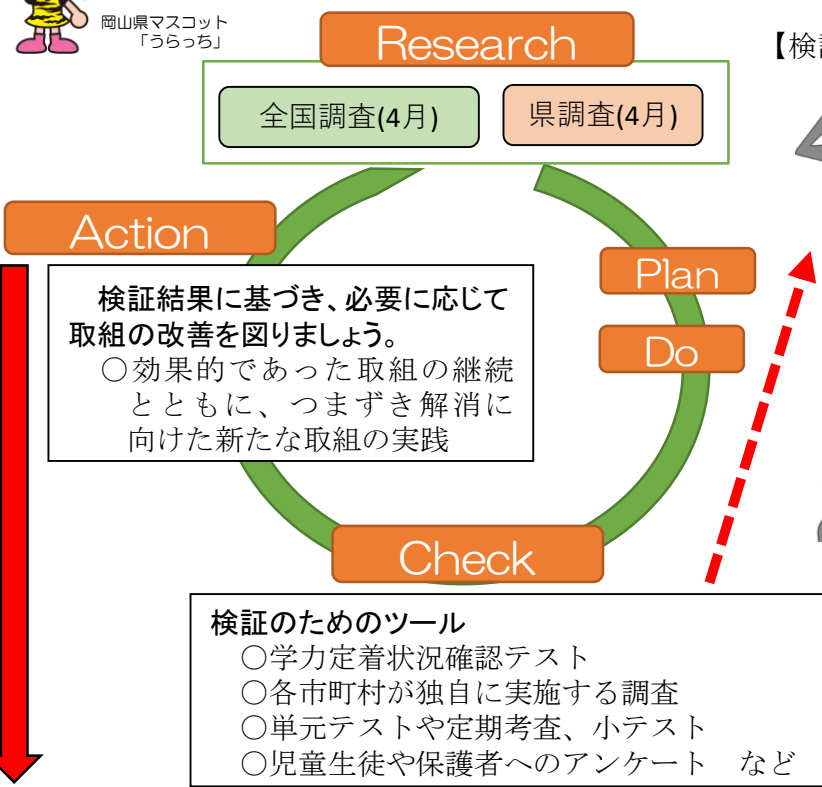
年度後半に向けて、これまでの取組を点検しましょう

今年も残りわずかとなりました。この期には、これまでの取組を検証（Check）し、効果的であった取組を継続するとともに、残された課題解決のために、3学期に重点的に取り組むことを明確にし、指導に生かすことが児童生徒の学力を伸ばす上で重要となります。



岡山県マスコット「うらっち」

検証（Check）を基に、改善（Action）に向けた取組を明確にしましょう



【検証後の話し合いで・・・】



6年生を自校採点した結果だと、割合の問題に課題があったなあ。5年生はどうだった？



四則混合の計算問題は、正答率が上がったから、対策プリントと個別の補充学習の効果が表れたかな。



なるほど。3学期の朝学習を、ふりかえりプリント集の中から、基礎と応用の2問を選んで準備し、子どもに応じて解かせることで、つまずき解消を図っていく。

教職員同士で話し合い、効果的であった取組を継続するとともに、つまずき解消に向けた改善を推進しましょう。

具体的な取組へ(例)

授業改善に向け、一歩先へ踏み出そう



- 「割合の指導資料」（小学校資料）や「中学校英語 4技能をバランスよく育成するために」（中学校資料）などの県教委作成資料等を活用し、児童生徒が知識を記憶する学びにとどまらず、思考したことを表現するなど、深く学ぶようにさせる。
- 「児童生徒が主役となる授業づくり」と「全体を見通した単元計画」を意識した授業づくりを進める。（岡山型学習指導のスタンダード【増補版】授業改善、「一歩先へ！」参照）

何よりも大切なのは、普段の授業です。授業改善を進めるために、視点を明確にして、同僚とお互いの授業を見合い、感想や助言を伝え合うことも効果的です。



岡山県マスコット「ももっち」

冬休みの学習習慣を確立させるために



- 児童生徒に冬休みの家庭学習の計画を立てさせる。
- テレビやスマホのルールなどを家族で話し合うことと、家庭学習の充実に向けた課題設定の意味や目的を懇談等で保護者にも伝える。

児童生徒のつまずき解消のためにできること



- 経年的に課題である全国及び県学力・学習状況調査に出題された設問を授業で取り上げ、類題を宿題として課す。
- 冬休みや放課後を活用して、個別に補充学習をする。



学年や教科を越えて学校全体の課題を話し合い、課題解消に向けた効果的な取組を全教職員で実施しましょう。